■□■いよいよ ACE（ASEAN 経済共同体）発足にサイン

大荒れに荒れるヨーロッパを傍らに、クアラルンプールでは 21 日～22 日と ASEAN 首脳会議が開催されました。

そしてこのタイミングで、ASEAN メンバー10 カ国の首脳が、本年 12 月 31 日に正式に ACE（ASEAN 経済共同体）設立に関する同意書にサインしました。

最初の構想は 1992 年の ASEAN 自由貿易協議会、そこから足かけ 20 有余年を経ての大きな大きな時代の転換です。

ACE についてはググれば記事や論説がたくさん出てきますが、ここではシンガポール最大の英字新聞、ストレイツ・タイムズの政治部編集者であるザカール・ハッサンさんのコラム（24 日掲載）を参考にしながら、日本ではあまり取り上げられていないと僕が思う ACE の概要を押さえておきたいと思います。

■□■ACE には三つの共同体があります

経済共同ばかりが取り上げられる ACE ですが、実は三つの共同体から構成されています。

一つがおなじみ経済共同体、もう一つが安全保障共同体（ASEAN Political-Security Community）、そしてもう一つが社会・文化共同体（ASEAN Socio-Cultural Community）です。

20 有余年前に議論がスタートしたのも経済と防衛の協力がきっかけでした。

考えてもみていただきたいのは、ASEAN の各国は古くからヨーロッパや日本といった当時の列強国の支配下にあったり統治下にあったりを繰り返していました。

自分たちが経済的に他国に収奪されることもなく軍事的に他国に脅かされることもなく豊かになっていきたい、というのは各国のリーダーたちの長年の悲願であったと思います。

第二次大戦後、ヨーロッパや日本の支配から解放されましたが、代わって台頭してきたのが中国とインドです。

特に中国とはASEANのいくつもの国が領土問題を抱えています。

経済圏だけをまとめるのではなく何かトラブルがあった時は、今回のロシアに対するNATOのように、協力して自分たちの経済圏を守ろう、ということなのだと思います。

ここでは割愛しますが、この安全保障に関してASEAN諸国が、日本にバランサーとして機能してほしいと思っているのは各国首脳のコメントからもわかる通りです。

一方で中国が南沙諸島で海路空路の確保を急いでいるのも、この安全保障共同体に関係がある、というのはうがった見方でしょうか。

■□■社会・文化共同体のユニークさ

そしてここがASEANだなあ、と僕が思うのは社会・文化共同体を用意しているところです。

これは各国が独自で長い長い歴史的宗教的なバックグラウンドを持っているので、それを理念や協定や法律だけを優先させて同じステージに乗っけても意見が折り合わない、ということなのだと思います。

お互いの社会・文化に根ざした考え方を尊重しよう、相容れないのは当たり前なんだ、その上で

みんなで落としどころを見つけていこう、というこの考え方は、シンガポールに住む僕にはとても理解しやすいものです。

こう言っては何ですがASEANにはアメリカやフランスの建国の歴史より遙かに長い歴史を持つ国があるわけですから。

■□■本当にアジアの時代になるのか

ACEが発足することによって、ASEAN圏内では2018年まで年率5%程度の経済成長、2025年までには1,400万もの新しい仕事が産まれると予想されています。

平均年齢28.8歳の若いASEAN人たちがこれらの経済成長をドライバーに、本当にアジアの時代をつくっていけるのかどうかは、大きな歴史の物語の一つです。

そしてその大きな変化に日本も対応し、広い意味での果実を分かち合うことができれば、これ以上のことはないと思います。

（シンビズ　シンガポール情報局　ケイ）